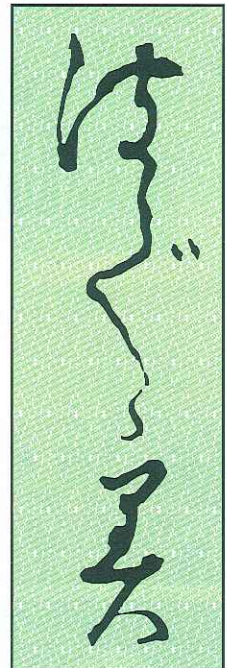


大分県PTA



発行所 大分市大字下郡496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 電話(097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市六所北町4485番地の1 大分出版印刷



ふみだそう 新たな活動へ

第3回 全単位PTA会長 研修会



参加者と語りあうパネリスト



あいさつをする富永会長

第3回県全単位PTA会長研修会が、8月30日に大分県教育会館において、初の全日開催として行われた。県内PTAより、各単P会長272名が出席した。実践発表会、全体研修会など充実した会となった。

より機動的な 組織を目指して

第1部 映画鑑賞 テーマはいのち

各方面の諸課題に取り組み、ために、年に一度集い、話し合う機会を持つ研修会。始めに、富永大輔県P連会

長が「単独での会長研修会は今初めて。多くの意見交流が、子どもを取り巻く問題の解決の糸口となることを期待している。何よりも「子ども」のためにこれでもいいのか」と考え、この出会いを皆さんの糧として、今後のP活動に役立ててほしい」とあいさつ。3部構成のプログラムは、映画「プタがいた教室」を参加者全員で鑑賞することから始まった。鑑賞後「命の重さについて、考えることができた。子どもにも見てもらい、考えてほしい内容だ」と、感想が寄せられた。

第2部 「いのちの星」 推進事業実践発表会

午後、「いのちの星」推進事業実践発表会が行われた。佐伯市立大島小中Pは、児童、生徒数が4名の小規模校。安藤謙二教頭は「演劇に間近でふれることで、自分の考えを伝える力を学んでほしい」と考え、劇団「風の子九州」に公演を依頼。島民の方の協力も得て、初めての観劇に、子どもたちの笑顔があふれた。この経験は子どもたちの心を豊かにし、実りとなることと信じている」と語った。大分市立明野東小Pは、全校生徒419名の中規模校。乙部洋P会長は「近隣の高尾



熱心に聞きいる各単P会長

第3部 全体研修会 パネルディスカッション

全体研修会では「単P会長として見えてきた 子どもへの教育について」をテーマに、後藤智恵P連副会長がコーディネーターを務め、パネリストの単P活動は、学校生活や環

パネリスト

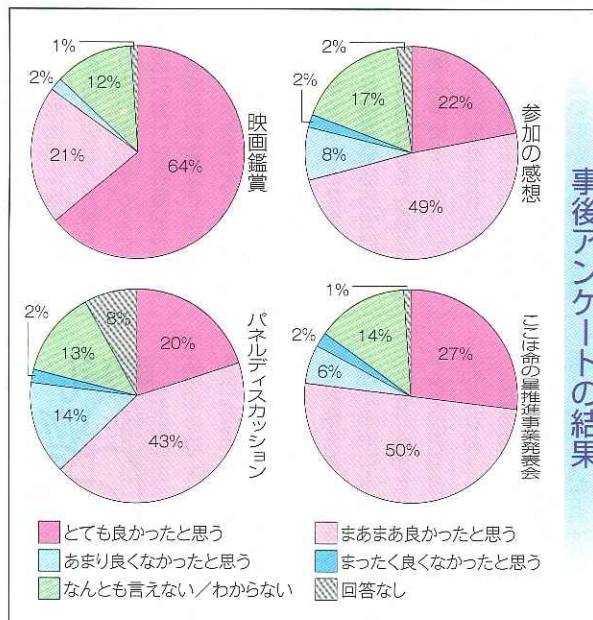
- 富永 大輔 大分県PTA連合会会長(大分市PTA連合会会長)
- 池内 晴一 大分県PTA連合会顧問(竹田市)
- 藤本 友則 大分県PTA連合会理事(日田市連合会青友会会長)
- 安藤 謙二 佐伯市立大島小中学校教頭
- 乙部 洋 大分市立明野東小学校PTA会長
- 相部 秀彦 国東市・姫島村PTA連絡協議会事務局長

コーディネーター

- 後藤 智 大分県PTA連合会副会長(教育研修部長) 敬称略・順不同

意見交流会

「食育の取り組みとして、食に対する意識を高めるため「お弁当の日」を設け、子どもが食材から準備をし弁当をつくらせている。家庭でのコミュニケーションも増え、子どもたちの笑顔が多くなった」 「ナイトハイクを行っている



事後アンケートの結果

事後アンケートでは「会長たちが集まる機会があるだけで、単P活動をしていく上で刺激をうけることができる」など多くの感想が寄せられた。率直な意見や、報告に真剣に耳を傾ける姿は、P活動をより良いものにしていきたいとの共通する思いがある。同じ志を持つ参加者にとって、実りある会となった。

境を考えながら、子どもを中心に取組んでいくことが大切。また、「育友会に農林部があり、児童と一緒に、種蒔きから稲刈りまでをしている。学校林では植林や枝打ちの体験をしている。また地域にある梨農園で製作をする。年間行事が多く準備も大変だが、子どもたちの笑顔にフアイトももたっている」とテーマに沿った提言があり、その後、意見交流のときとなった。

研心北

▼国東半島の両子山に六郷満山の総寺院、名利両子寺がある。その境内に二基の歌碑がある。「山川乃於とは父母の愛爾似天かわること無久多ゆる古登無し」変体仮名なので書き換えると「山川の音は父母の愛に似てかわること無く絶ゆること無し」(金田一京助、昭44・5・14参詣) 「山川の瀬音の中に身を置けば亡き父の我を論ず声聞こゆ」(金田一春彦平成2・4・16同) ▼学者二代の親子が霊場御仏の前で詠じた親憶う敬愛思慕の情歌である。京助は、言語学者、東大、国学院大教授、啄木と親交、アイヌ語・文化の研究、文化勲章受賞(1882-1971) 『広辞苑』偉大な父に習(倣)って国語研究者となった二代目春彦、三代目はTVでもお馴染みの秀穂。親子三代、日本語研究一途の家系である。最近とみに世襲が云々されているが、こんな世襲は是非ともである▼「子供は父母の行為を映す鏡である」(スペンサー、英国の哲学者) 親が真剣に正しく生きることが何にも代え難い本當の教育となる。「一人の父親は百人の校長にまさる」(チェスターフィールド著)「わが息子よ、君はどう生きるか」より抜粋の竹内均訳・編「父から息子へ」(三笠書房)の序文のタイトル。原本は二百年経っても色褪せない世界的ベストセラー、「一読を▼「父母の魂魄は我に生きてをり 身をもて信じ つゆ疑わず」(窪田空穂) 古稀を過ぎ、両親の大きさを感じている。「親を忘るるは易く、親をして我れを忘れしむるは難し」(莊子)、「子が親を思うより親が子を思う情の方がはるかに深く、大きく、重い。

平成20・21年度大分県PTA連合会指定研究発表会

心豊かな子どもを地域とともに



下郡小PTA
 1年前は、空き箱と牛乳パックでびっくり箱を作成した。飾りつけた箱を開けるとつながったパックが輪ゴムのパネで飛び出す仕組み。「きれいな箱なび出す仕組み」。

北山田小PTA
 午前中の発表では、2年生、6年生、北山田どんどんクラブ(学年の違う子どもや地域の大人たちとの活動)がそれぞれ「お弁当」がテーマ。自分たちで栽培した白ねぎや地域の食材であるしいたけやセロリなどを使って地域に住む

親子で協力 いきいき活動
 午前中は、3部門に分かれそれぞれのテーマに沿った公開活動を展開。事前に子どもが興味のある教室を自分で選べるのが特色。
 まずは各学年の委員長部長。1年は、空き箱と牛乳パックでびっくり箱を作成した。飾りつけた箱を開けるとつながったパックが輪ゴムのパネで飛び出す仕組み。「きれいな箱なび出す仕組み」。

地域の名人と
 午前中の発表では、2年生、6年生、北山田どんどんクラブ(学年の違う子どもや地域の大人たちとの活動)がそれぞれ「お弁当」がテーマ。自分たちで栽培した白ねぎや地域の食材であるしいたけやセロリなどを使って地域に住む

ふれあい育てるきずな
 2年生は「親子で体験、名人技」がテーマ。地域の名人探しから始まった郷土玩具「きずな」作り。きずな保存会との交流を通して、きずなの由来を知り、守り伝えようとする思いにふれながら親子で作った。「子どもの頃からのきずなが大好きだったので作ることにできたよ」と男子児童。保護者は「初めて持たせるのこぎり、小刀など、こわかったけれど、ケガもなくでき上がってよかった」と話した。

環境の中で
 午後からの発表では、各専門部が実践活動報告をした。朝のあいさつを広める「かけつけ運動」や登下校時の「子ども見守りパトロール」など、どの部も家庭・学校・地域と

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

多彩な活動 支える団結
 大分市立下郡小学校PTA(児童数807名、会員数636名)は「家庭・学校・地域の連携」地域とはぐくむ心豊かな子どもたち」を研究主題に公開発表を行った。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

環境は変わっても
 3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

大分市立下郡小学校PTA 11月14日

多彩な活動 支える団結

平成20・21年度の2年間にわたり県PTA指定研究に取り組んできた3校のPTAがそれぞれの特色を生かした公開発表を行った。家庭・学校・地域の連携をふまえた取り組みの中から、心豊かな子どもたちのいきいきとした姿がうかがえる発表となった。
 (津久見市立第2中学校PTAの発表は、日程の関係で次号(2月)に掲載します)



びっくり箱の中は…!

大分市立下郡小学校PTA 11月21日

ふれあい育てるきずな

2年生は「親子で体験、名人技」がテーマ。地域の名人探しから始まった郷土玩具「きずな」作り。きずな保存会との交流を通して、きずなの由来を知り、守り伝えようとする思いにふれながら親子で作った。「子どもの頃からのきずなが大好きだったので作ることにできたよ」と男子児童。保護者は「初めて持たせるのこぎり、小刀など、こわかったけれど、ケガもなくでき上がってよかった」と話した。

3年生の社会見学。引率で「昭和の町」に行ってきた。子どもたちは、黒塗りの机が並ぶ教室で木製の椅子に座ったり、木製の机をたたいたり、「かわいい木琴やな」「時計は今も同じや」と大はしゃぎでした。「これ何?」と尋ねられ、まず「脱脂粉乳を膜が張らないうちに」と一気飲みしていたことを話しました。

午後からの発表では、各専門部が、[各学級活動では地域の力や力をかり、それぞれの学年にあった活動に取り組めた。また、祖母や地域の方とのふれ合いを通して「きずな」がうまれることは子どもの成長にかかせないものである」と発表された。

PTA指定研究発表は、昭和24年県教委が始めたのをきっかけに昭和31年から県PTAと共催で引き継がれており、他県にはない大分県P連の特色ある事業である。
 現在は下郡より1単位PTAと、県南・県北の各郡市より2単位PTAを指定、2年間の研究の成果を公開発表し、今後のPTA活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

宇佐市立長洲小学校
 教諭 江口 恵美子

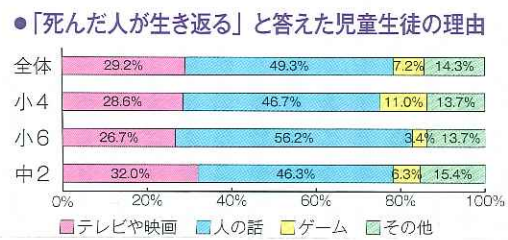
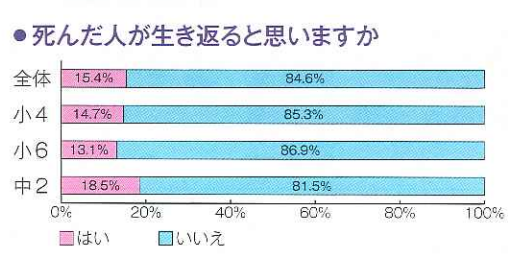


平成18年度に「いじめの根絶と命の尊さを訴える」緊急アピールが(社)日本PTA全国協議会から出された。県Pでもこれを受けて、この緊急性を各単Pに通知し、各種相談窓口を紹介した。今また、子どもが他者の命を軽く見ているかの様な事件があつたを絶たない。
今、子どもたちに命の大切さを伝えるためにどうしたらいいのか？ 早い対応が迫られる。

今、命にふれる機会がゲーム機やマンガなどに限られているのではないのか。その中で様々な命のとりえ方が見受けられる。子どもたちにとってのうちに接したらいいのだろうか。
現実の命に向きあわせる
うまごい

今考える
身近なくらしの中で 命の尊さを伝えるために

「生と死」のイメージに関する意識調査



＜コメント＞
・テレビや映画等で生き返るところを見たことがあるから
・生き返る話を聞いたことがあるから
(テレビ等を見て・本を読んで・人の話を聞いて)
・ゲームでリセットできるから
・その他
出典：「心を育てる道徳教材集」長崎県教育庁学校教育課 平成17年3月

ソードを話された。「子どもが大事に育てているハムスターが死んでしまった。本人がいない間に新しいハムスターに代えておきたいので、大人のハムスターが欲しい」ということだった。私は「子どもは大人が思っているより、ずっとよく見ているから、新しいハムスターに代えたってすぐわかりますよ。大事にしているならなおさらです」と言い「それよりも事実を隠さないで、命に代わりがないことを子どもに話してちゃんと供養してほしい」と伝えた。しかし、その母親は「うちの子どもはその現実を受け止められないと思う」と戸惑いをみせ、結論がでないまま電話は切れてしまった。私は、気持ちに伝わらなかったことを心残りに思った。子どもが欲しいと言え、ひとつの命を育てる重みも大切さも考えさせず、簡単に動物や

虫を買い与えることが多いように思う。そして、死んだら隠し、新しいものと取り換える。それでは、命あるものも他のおもちゃ同様、工場できて簡単に取り換えがきくと思ってしまうのではないだろうか」と子どもが命というものをどう捉えるようになるのか心配されていた。

日々の生活の中で 学んでいた命の重さ
中学生の親であるAさんが、子どもの頃の命との関わりについて気が付いたことを話してくれた。「私たちが子どものころを振り返ると、遊びや生活の中で、いつ知ったのかわからないくらい自然に、命というものの大切さを学んでいたのではないだろうか。野原や林で昆虫採集をし、トンボやセミにひもを付けて飛ばすなど時



には残酷と思える遊びもしていた。今思うと、そういう体験から、死んでしまったそれらを見て、それぞれにひとつの命であることを知り、罪悪感から他者を傷つけることに対するブレーキが心の中にきた。そのころと比べると、今の子どもは、遊びや生活の中で命の大切さを学ぶ機会が少なくなっている。意識して考えさせ、体験できる場を作らないといけないようになって

ではないかと感じる。でも、自分たちが育ててきたときに親が教えることも自然に学ばせようと思っていたので、どう機会を作っていたのか、思いのなかなかなか思いつかない。

2つの話からは、子どもと命のかかわり方に迷っている親の姿がうかがえる。さらに、資料「左図参照」のように、テレビやバーチャルな世界での死を現実のものと同じように受け止める子どももいる。ほとんどは、きちんと分かっているように安心できるが、現実の命というものがどういふものなのか向き合わせることは大切なのではないだろうか。

生と死の体感を 通して学ぶ
命の大切さ、はかなさを動物の姿を通して伝えようとしたBさんの話。
「我が家は子どもが生まれたときからいろいろな種類の動物を常に飼っていたので、子どもは動物を身近に感じている。子どもが小学生の時の話だが、瀕死の動物がいたとき『お母さん助けてあげて』と連れて帰ることがあった。そんな時は一緒に看病し、死んだら一緒に埋葬を作ってあげた。その時冷たくなった身体を子どもに触らせて『さっきまで温かったのに、冷たくなっちゃったね。もう動か

ないんだよ。死んでしまったの』と話した。そういう経験から、子どもは命の大切さというものを知ってくれていると思う」と話してくれた。また「先ほどまで温かかった身体から、温もりが失われていくことの体感、子ども心の奥に現実味を持った命の記憶として届くと信じたい。尊い命に、きちんと向き合いたいと思つた」と語った。

身近なことから 始めよう
身の周りにおける命を大切にすることも大事なことだが、自身をかけたがえりが必要な存在と思えるようになることも命を大切にすることにつながるのではないだろうか。あきらまっかけをCさんに聞いた。
「子どもが小4の時に、学校で2分の1成人式をするので、赤ちゃんの時の写真があると聞きました。久しぶりにアル

昔からある言葉です。それが、この言葉。葉を最近に。なつてよく。耳にします。私たち大人は今、子どもたちにとどのようになうしろ姿を見せるべきなのでしょう。か？
私の住む地域の子どもたちは非常に純朴で、まだまだ田舎の良さを残した子どもが、数多くいます。しかしその一方で、ムダで余計なことはしない、クールな賢さでもいうのでしょうか？ 妙に大人びた子どもが増えてきたように感じています。自分

大人のうしろ姿
チャレンジ精神を失いかけた私たち大人が今こそ、そういったうしろ姿を子どもたちに示す時がきたのではないかと、つくづく感じています。
由布市立狭間小学校 PTA会長 生野 友子



竹田市PTA連合会は平成17年に旧竹田市PTAと旧直入郡PTAが合併を行ない、5月に新竹田市PTA連合会が誕生しました。7つの専門部会に分れて、部長を中心にそれぞれの活動をおこなっています。

活発な専門部活動

まずは総務部です。会務統括や県PTA連関係の活動を行っています。次に保健部ですが、保健体育に関する事が主な活動です。毎年7月の第1週の日曜日にあります球技大会は、会員の方々がとても楽しみにしています。白熱した試合が予想されます。次に教育

盛り上がる球技大会

充実した連合会に

最後になりましたが、一年を通して「市PTA連は大変だったが充実していた」と言える連合会作りをしていきたいと思っています。

竹田市PTA連合会 事務局長 後藤 加州美

新しい連合会in16

竹田市PTA連合会



講演する遠山敦子氏

「拓こう！素晴らしい子どもの未来！家庭・学校・地域で奏でる子育て・親育ちのハーモニー」を大会スローガンに第54回九州ブロックPTA研究会福岡県大会が10月24・25日に開催された。九州各県より約10000名(大分県からは609名)が参加した。1日目は10の会場に分かれて分科会が行われた。大分県は第8、9分科会で提言発表を行った。

第8分科会 教育問題・小学校

由布市立 狭間小学校PTA

「学ぶ意欲と体験活動を支援するPTA活動」をテーマに枝木東海前P会長が提言発表。「Pへの参加率が、課題のひとつである父親の出番を作るため『無理をせず、出来ることを出来る時に』を合い言葉に、『親児の会』を発足。子どもがお世話になる学校で父親らしいことがしたい、そんな思いで、校内の樹木の剪定、遊具の点検、校舎の修繕作業等を行っている。また、子どもたちと一緒に出来る活動をと、通学路の探検と危険

第54回九州ブロックPTA研究会 福岡県大会



和やかに進行

箇所をチェック、給食のカレーの材料となる、たまねぎを植えた。また、正月には親子で門松を作った」と報告。討議では、子どもの学校生活を支える家庭の役割について意見交流を行った。

助言者は「信頼と友愛の輪を持ち、保護者の資質の向上に努めている。子どもにも、父親も活動を通して変わっていくことが分かった」と講評した。

第9分科会 教育問題・中学校

白杵市立 南中学校PTA

「学ぶ意欲と体験活動の充実を支援するPTA活動」をテーマに、長森一道P会長が提言発表。「専門部活動は

多くの質問に熱心に答える提言者

さあ来い! リスク。

安心のゴールキーパーでありたい。リスクとトータルに戦う 総合保険ブランド[GK] クルマの保険 | すまいの保険 | からだの保険 | 生命の保険 |



三井住友海上グループ MSIG

三井住友海上火災保険株式会社 〒104-8252 東京都中央区新川 2-27-2 www.ms-ins.com

県情報 第18回県PTA研究会 中津大会 平成22年2月27日(土) 中津文化会館他 研究主題 優しい心を育み、思いやりに溢れた子どもたちを育てるPTA活動

編集後記 九Pや指定研で、大分のP活動の素晴らしさを再認識。年末に向け行事がめじろ押し、体調に気を付けましょう。「今考える」。娘とアルパム開く。よい時となった。初めでの取材。子どものイキイキとした笑顔に感動。

おめでとうございます
平成21年度 優良PTA功労者表彰

文部科学大臣表彰 (以下敬称略)
日本PTA会長表彰 (団体) 田染小学校PTA (豊後高田市)

日本PTA会長表彰 (団体) 城南中学校PTA (大分市)
鶴岡小学校PTA (佐伯市)

九州ブロックPTA会長表彰 (個人) 池内 晴一 (竹田市)
梅田 一弘 (佐伯市)
河野 美幸 (白杵市)

九州ブロックPTA会長表彰 (団体) 大野中学校PTA (豊後大野市)
久住小学校PTA (竹田市)

個人 指原 俊二 (由布市)
梅田 一弘 (佐伯市)
池内 晴一 (前県PTA連合会長)

(感謝状) 池内 晴一 (前県PTA連合会長)
河野 美幸 (前県PTA連合会長)

第57回日本PTA全国研究大会 みやぎ大会

おう！まっすぐに 語り合おう！子どもたちの未来のために」を大会スローガンに、各分科会で熱心な討議が行われた。参加した特別第2分科会では、午前中に基調講演があり、午後は「学校と地域との連携とPTAの役割」と題してシンポジウムがあった。PTAのもつ役割の重要性を改めて感じた。

全体会では、医学博士・東北大学教授川島隆太氏の記念講演があった。演題「脳科学から見た早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」の中で、「前頭葉の発達には親子のコミュニケーションが関連する」というのが参考になった。

九Pや指定研で、大分のP活動の素晴らしさを再認識。年末に向け行事がめじろ押し、体調に気を付けましょう。「今考える」。娘とアルパム開く。よい時となった。初めでの取材。子どものイキイキとした笑顔に感動。

質の高さがうかがえた。助言者の向智章県教育庁社会教育課社会教育主事は「素晴らしい内容だったので、他校の活動の参考になったのではないかと講評した。2日目の全体会では、元文部科学大臣の遠山敦子氏が「いま、子どもたちへ伝えたいこと」と題し講演。知力・体力・心を育むことの大切さを強調し「大人は子どものモデルになる生き方を。親が自ら学び、自然に親しみ、活力をもって生きる。人生の先輩として子どもに親の姿を見せよう」と語った。最後に次期開催地熊本県にバトンタッチし大会は幕を閉じた。

みんながながえる コーナー

反抗期 どう接したらいいの?

何でも話せる友だちを

中学2年生のA子は、武道に打ち込み実績をあげ、県下で強豪のひとつに数えられるようになり、父の指導に悩んでいました。技術面や生活面でのアドバイスを父親から受けて、めきめき力をつけていきました。ところが、2年生の夏の大会後、友だちとのこみいったトラブルが未解決の中、「いとうおりにしていたのが、まぢが良かった」と考えはじめ自分の殻に閉じこもってしまいました。

A子とまぢの不安は、友だちとの複雑な人間関係のからみあいの渦中であって、動きがとれなくなつたものと

考えられます。これまで、何の疑問も感じていなかった周囲の指示的な内容、特に、父親の言うことに疑問や反発を感じるようになっていたかもしれせん。価値観の多様化や規範意識の欠如が指摘される今、自分を見つめ、悩むでしょう。しっかりとA子だつたと思いますが、新たな自分らしさを求めているものと映ります。

この時期の子どもは、悩みながら、友だち同士で支え合い解決し、乗り切ることが出来るようになってきます。

みんなで作るコーナー室長 岩尾 淳一